

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

国立大学法人九州大学（証券コード：-）

【据置】

長期優先債務格付 格付の見通し	AAA 安定的
--------------------	------------

■格付事由

- (1) 創立100周年を迎える日本の高等教育・研究を牽引する基幹的総合大学の一枚。現中期計画ではアジア諸国との地理的近接性を活かしたグローバルベースでの拠点大学の構築を目指している。大学院、大学の学生獲得力ならびに研究拠点大学としての外部資金の獲得力は国内屈指の水準にある。
- (2) 04年度から始まった国立大学法人制度は、10年度より第二期中期目標期間に入ったが、基本的な制度の枠組みに変化はなく、国による手厚い財政措置が行われることを前提に設計されている。国からの運営費交付金につき、第一期では一定の効率化係数、経営改善係数等が課せられたことで削減が続いたが、第二期では各係数の撤回、見直しが行われるなど、運営費交付金の減少リスクはやや後退した状況にある。
- (3) これまで本学運営上の一つの懸案事項であった病院再開は一巡している。これまで附属病院運営費交付金の削減もあって収支均衡に労していたものの、継続的な収入増加に向けた取組とコスト削減活動に診療報酬の増額改定の流れを取り込むことで、収支は改善の方向にある。もう一つの懸案である伊都キャンパスへの統合移転は、国からの予算を確保することで2019年度を目処とするスケジュールは順調に推移している。現中期目標期間においても引き続き最重要事項となるが、キャンパスの分散状態の解消や予算措置外の施設・設備整備資金の安定確保等が早期に図られるならば、一段と本学の教育・研究基盤の改善、高度化が促進される可能性がある。
- (4) 行政刷新会議における事業仕分けでは、多くの競争的資金の廃止、縮減等の方針が打ち出されている。また、国立大学法人のあり方自体についても見直しの提言が出されるなど、今後の大学運営に影響を及ぼす不確実な要素は散見される。しかし、大規模伝統校ならではのアカデミズムとマネジメントのバランスを重視し、その定着と改善に向けた施策は、現執行部によって確実に実施されている。従前より多彩な学術領域と柔軟な組織編制力には定評があり、運営費交付金を含む将来キャッシュフローの獲得機会を増やすことは十分可能であろう。JCRは今後の高等教育行政の動向が本学に与える影響を見定めていく必要はあるものの、多様なステークホルダーからの支持基盤は総じて強固、かつ着実に厚みを増しつつあり、高位安定的なキャッシュ・フローは当面維持可能であると評価している。

(担当) 吉田 法男・殿村 成信

■格付対象

発行体：国立大学法人九州大学

【据置】

対象	格付	見通し
長期優先債務	AAA	安定的